

Press Release

令和元年9月18日

今シーズン（2019年9/2～）県内発のインフルエンザの集団発生がありました

- 今シーズン（2019年9/2～）県内初の事例となるインフルエンザの集団発生が、小林市内の教育・保育施設においてありました。
- 県内は、2019年第36週（9/2～9/8）に流行シーズンに入り、今後、県内での流行が考えられます。
- 集団生活においては、感染症の集団発生が懸念されることから、手洗いや咳エチケット等の感染予防対策の徹底をお願いします。

1. 発生の概要

(1) 発生場所

小林市内の教育・保育施設（園児120名、職員19名）

(2) 発生状況（9月17日時点）

園児 13名（男児8名、女児5名）

職員 2名（20歳代男性、40歳代女性）

症状 発熱 ※重症者なし

全員よりインフルエンザA型が確認された。

2. 感染拡大防止のための対応

小林保健所は、当該施設に対し、手洗いの徹底、有症状者へのマスクの着用など施設内感染予防対策について指導。

参考

(1) 県内のインフルエンザの発生状況

県内では、2019年第36週（9/2～9/8）の感染症発生動向調査で、インフルエンザ定点からの報告数が69人（1定点医療機関あたり1.17）となり、流行開始の目安とされている定点あたり報告数「1」を超えました。

○保健所ごとの発生状況

2019年第36週（9/2～9/8）

地区名 (保健所)	宮崎県	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
報告数	69	5	1	44	0	10	0	0	0	9
定点あたり	1.17	0.31	0.10	6.29	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	4.50

(2) インフルエンザの感染予防対策等 ※別紙参照

(3) その他

インフルエンザの報告数については、宮崎県感染症週報において1週間毎に集計してお知らせしています。

(お問い合わせ先)

福祉保健部 健康増進課感染症対策室 感染症対策担当

担当者：高藤、立山、水流、茅野

電話：0985-44-2620（内線 2494）

インフルエンザとは？

1. インフルエンザとは？

- ・例年12月から3月頃を中心に発生します。
- ・子どもや高齢者では脳症や肺炎を併発する等重症化することがあるので注意が必要です。

2. どんなところで、何から感染するの？

○感染経路：飛沫感染、接触感染

感染した人の咳やくしゃみにより、飛沫とともに放出されたインフルエンザウイルスが鼻やのどの粘膜に付着したり、吸い込まれることによって感染します。また、インフルエンザウイルスが付着した物（ドアノブ等）を触れた手で鼻や目などに触れることによっても感染します。



3. 症状は？

○潜伏期間：1～3日

- 症状：38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、鼻汁、咳など
発症後2～5日間はウイルスが排泄されるといわれています。

4. 感染を予防するためには

○手洗い

- ・石けんを使って丁寧にこすり洗いをし、水で洗い流します。
- ・手洗い後はペーパータオル等を使って手を拭きます。
タオルを使用する場合は、毎回タオルを交換するか、清潔な個人用タオルを使用します。
- ・水道の蛇口は、手と一緒に洗うかペーパータオルを利用して締めると、手の再汚染を防げます。



○咳エチケット

- ・咳やくしゃみが出る時はマスクを着用しましょう。
- ・咳やくしゃみをする時は他の人から顔をそらせてティッシュ等で口と鼻を覆いましょう。
- ・鼻汁や痰を含んだティッシュは、すぐに蓋のついたごみ箱や袋に捨て、その後は手を洗いましょう。

○適度な湿度の保持

- ・乾燥しやすい室内では、湿度を50～60%に保ちましょう。

○流行前のワクチン接種

- ・インフルエンザワクチンは重症化防止に有効といわれています。

○その他

- ・体の抵抗力を高めるために、日頃から十分な休養と栄養摂取を心がけましょう。
- ・外出時は、人混みを避けましょう。

5. インフルエンザにかかったら

- ・マスクを着用して医療機関を受診しましょう。
- ・受診の際は、事前に医療機関に相談し、受診方法を確認しましょう。
- ・発症から48時間以内であれば、抗インフルエンザウイルス薬が有効とされています。治療については主治医に相談しましょう。
- ・人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。